

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

JULY 2016 vol.27

July						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

◆ 蟹江城址

所在地：海部郡蟹江町城

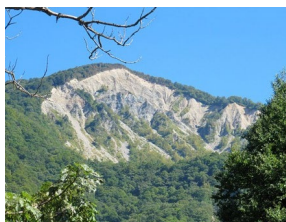
交通：JR 関西本線「蟹江」駅 南西 約 800m

蟹江城は、永享年間（1429～1440）に北条時任によって築かれたと言われ、戦国時代には、最初は織田家の家臣であった滝川一益が城主となり、織田家の北伊勢進攻や長島一向一揆鎮圧の拠点となるなど重要な城となっていました。やがて一益は賤ヶ岳の戦いの後に羽柴秀吉に敗れ、城は織田信雄の家臣、佐久間正勝のものとなります。天正 12（1584）年、秀吉勢と信雄・徳川家康勢が戦った小牧・長久手の戦いにおいて蟹江城も合戦の舞台となり、秀吉方となっていた一益に一度は攻略されますが、信雄・家康勢の反攻に遭い、半月後に落城します。この合戦で荒廃していた城を、翌天正 13（1586）年、天正地震が襲い、城は壊滅しました。

現在では、住宅街に城址を示す石碑と井戸跡が残されるのみですが、『東寺執行日記』、『多聞院日記』、『家忠日記』、『兼見卿記』など、天正地震により蟹江城が壊滅したという記録は多数残されています。この天正地震では、蟹江城のほかにも、清洲城（液状化、名古屋大学減災館に地層を剥ぎ取った液状化の痕跡の標本があります）飛騨帰雲城（帰雲山の山崩れにより埋没、城主内ヶ島一族は全員行



蟹江城址碑



帰雲山崩壊跡
(白川村役場 HP より)

方不明となり滅亡）、美濃大垣城（全壊焼失）、越中木舟城（倒壊、城主の前田秀継夫妻など多数が死亡）、伊勢長島城（太守が倒壊）、近江長浜城（全壊、山内一豊の娘と乳母が死亡）など、城郭の被害の記録が多く残されています。

天正地震は内陸活断層型の地震とされていますが、被災した城だけでも、海部の蟹江城から尾張、伊勢長島、美濃、飛騨、越中、近江と中部・北陸・近畿の広範囲にわたり、阿波でも地割れの被害が発生した記録が、さらには太平洋側の伊勢湾と日本海側の若狭湾で津波の記録が残されていて、被害の範囲は明治 24（1891）年に発生したマグニチュード 8.0 の濃尾地震よりも広く、非常に規模の大きな地震であったことがうかがえます。あるいは、平成 28 年熊本地震のように、短い期間に複数の大きな地震が発生したのかもしれませんが、なお、この天正地震のあと 20 年余りの間に、天正 17（1589）年駿河遠江大地震、文禄 5（1596）年慶長伊予地震・慶長豊後地震・慶長伏見地震（いずれもマグニチュード 7 前後）、慶長 9（1605）年慶長地震（マグニチュード 7.9～8.0）、慶長 16（1611）年慶長三陸地震（マグニチュード 8.1）など、大規模な地震が日本各地で連続的に発生しています。

活断層型の地震は日本中どこでも発生する可能性があります。また、海溝型の地震と異なり、人々の生活する地域の直下で発生するため、非常に強い揺れが集中する場所があります。繰り返し語られていることですが、日頃から、自らの生活する建物の耐震性を確保し、家具の転倒防止を進めておきたいですね。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 蟹江城址の周辺には…

● 常楽寺

所在地：海部郡蟹江町須成

交通：JR 関西本線「蟹江」駅 北西 約 800m

明治 24 年（1891）濃尾地震では、数百年を有した本堂、客殿、庫裡などがすべて倒壊しています。この後、政覚和尚と檀信徒により本堂、客殿、庫裡が再建されています。



● 善光寺

所在地：海部郡飛島村元起

交通：飛島公共交通バス「善光寺前」停 北西 約 150m

当初は瓦葺のお寺でしたが、台風災害や、昭和 19 年（1944）昭和東南海地震で倒れるなどの被害を受けたことから、昭和 46 年に 4 本柱を替え、屋根を銅板に葺き替え今日に至っています。



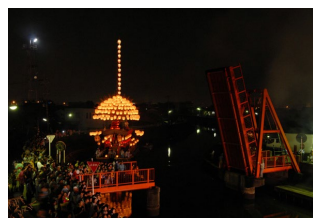
◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ すなり 須成祭

須成祭は、蟹江町北部の須成地区にある富吉建速神社・八剱社両社の祭礼として行われる川祭で、8 月第 1 土曜日に宵祭、翌日曜日に朝祭が行われます。

宵祭では、提灯をともした巻藁船が飾橋を出発し、祭囃子を奏でながら天王橋まで川を上ります。途中の御蔭橋は、須成祭のときにだけ、祭船を通過させるために橋が上がります。半円に飾られる巻藁提灯は 1 年の日数の 365 個、中心の如意竹に縦に並ぶ提灯は 1 年の月数の 12 個とされています。

翌日の朝祭では、巻藁船から模様替えをした車楽船に高砂人形が安置され、梅花・桜花が飾られ、稚児を乗せて、宵祭同様、飾橋を出発し天王橋まで川を上ります。天王橋到着後、神社拝殿で天王囃子を奏し、囃子が終わると、船を飾っていた梅花・桜花を観衆に投げる「投げ花」が行われます。



蟹江町観光協会 HP より

須成祭は、7 月の「稚児定め」から 10 月の「棚下し」まで約 100 日間にかけて数々の祭事が行われるため、別名「100 日祭」とも言われています。

7 月のあいちの花

平成 28 年 7 月のあいちの花はアンズリウムです。アンズリウムは、熱帯アメリカから西インド諸島にかけて約 600 種が分布する多年草の観葉植物で、花は肉穂花序（中心の棒状の部分）に多数ついています。仏炎苞（肉穂花序を包む大型の苞）が美しく着色し、ハート型の花に見えます。



1 か月以上花もちすることから切り花として利用され、鉢植えでも長く咲きます。ハワイではバレンタインデーに送る花として人気があるそうです。

● ブレイクタイム ●

♪ 蟹江町希望の丘広場

蟹江町希望の丘広場は、旧県立蟹江高等学校跡地に整備された広場で、晴天時には、高台から鈴鹿・養老山系が一望できます。平常時は社会教育のための施設となっており、管理棟には会議室・フリースペースなどが、屋外にはバーベキュー設備があります。

また、災害に備え、管理棟 4 階に防災備蓄倉庫が設けられているほか、高台は水害時に 500 人が一時避難できる『命山』の役割も果たします。非常階段には「防災ボックス（地震自動開錠鍵ボックス）」が設置され、震度 5 以上の地震が発生すると自動的にボックスが開錠されて、管理棟西側非常口のカギが取り出せる仕組みになっています。



蟹江町希望の丘広場
蟹江町観光協会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 7 月）